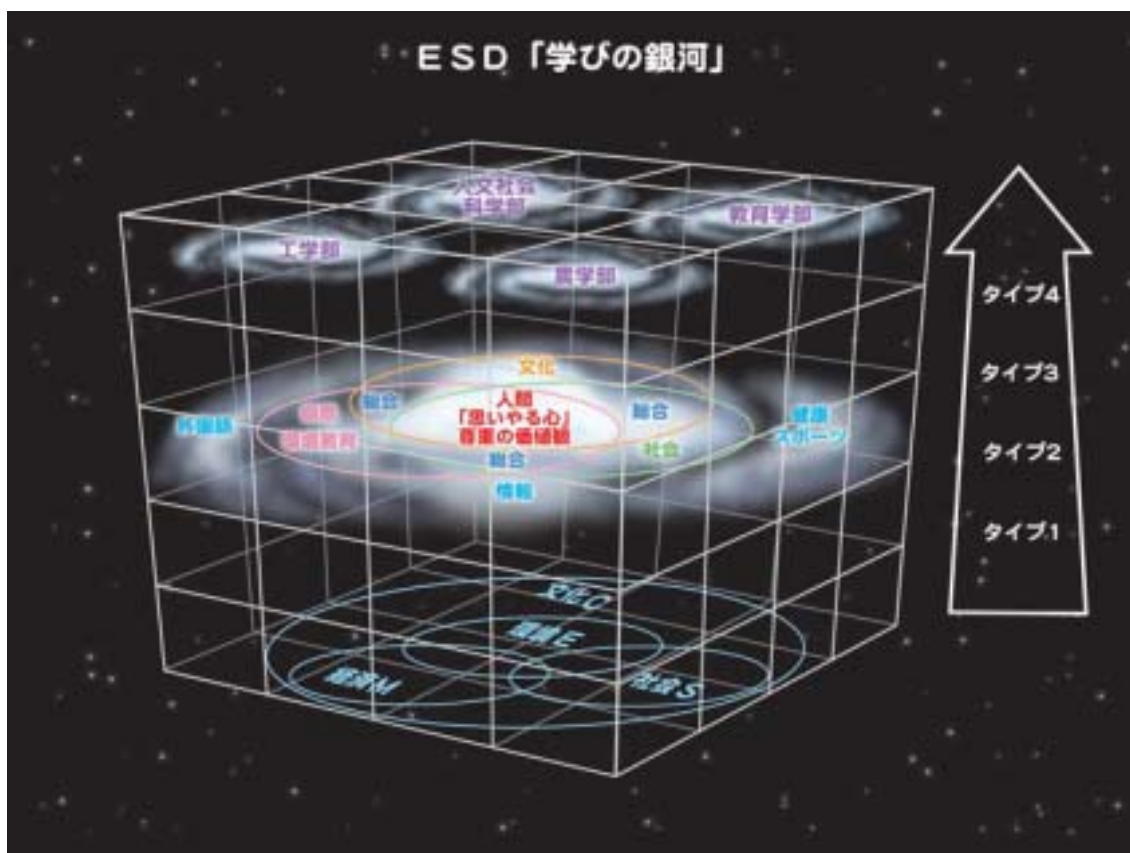


持続可能な社会のための教養教育の再構築(岩手大学)

< 概要 >

- 1) これまでコアカリキュラムとしてきた環境教育科目に加えて、すべての教養科目にESDを織り込み、教養教育を「21世紀型市民」育成のための教育プログラムとして再構築します。
- 2) 環境、社会、経済、文化の4つの領域と「関心の喚起」、「理解の広がりと深化」、「学生参加型」、「問題解決の体験」の4つのタイプによって教養科目を構造化し、履修科目選択を星座に譬えてイメージさせ、複眼的視野の育成を図ります。(「学びの銀河」)
- 3) 学外の団体と協働して県境の産廃問題など、地域の具体的な問題をテーマとする高年次教養科目を新設します。
- 4) 各学部の専門科目にもESD科目を認定し、教養教育と専門教育を横断して、持続可能な社会づくりに主体的に参画する人材を養成するESD副専攻を立てます。



サステナビリティ学教育プログラム(修士課程)

(東京大学)

1) 目的

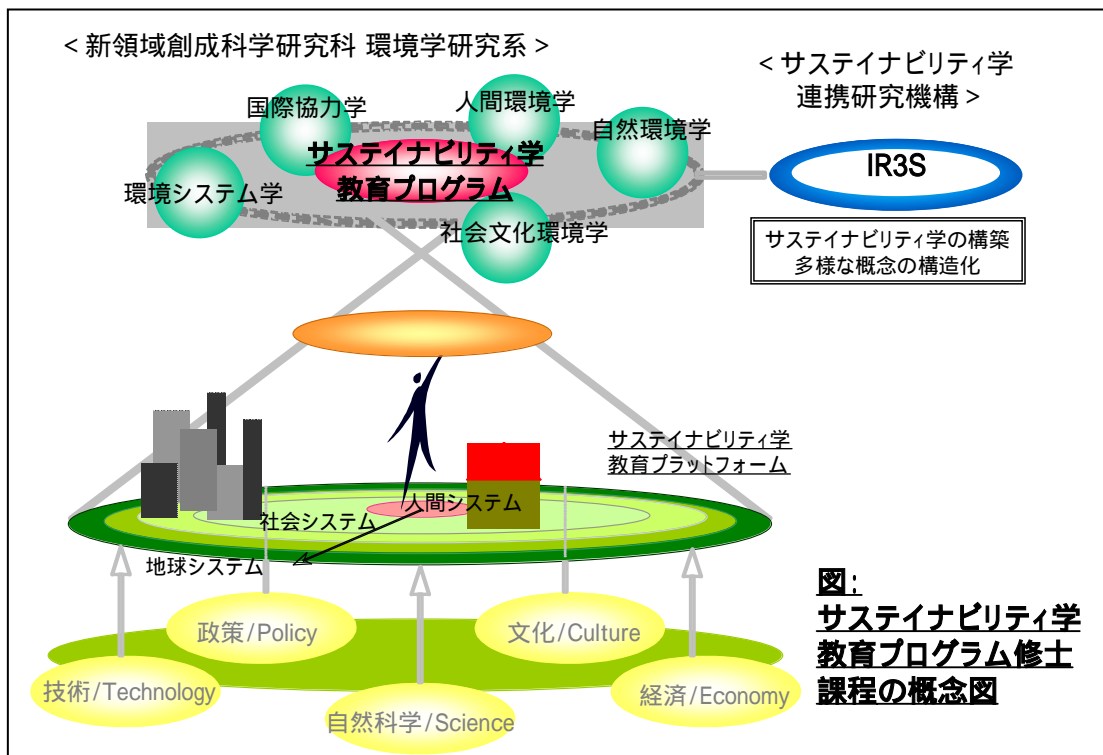
- 持続可能な社会の実現のために国際的な視野を持って貢献できる人材の養成。
(平成 19年 10月から実施予定)

2) 育てたい能力の例

- 持続可能性に関する多様な事柄を理解する
- 持続可能性に関わる問題の解決に向けて、新しいシステムの提案や、学問領域間・地域間・世代間の相互理解の形成のためのスキルを身に付ける 等

3) 将来に期待される活動の例

- 国際機関などにおいて、国家間・地域間の利害が対立するような諸問題の解決にたずさわる。
- 途上国援助の現場において、援助が真にその国の持続可能性に貢献する貢献するように調整役を果たす
- 地上自治体・企業・NGOなどにおいて、利害の対立する環境問題の解決にあたり、関連する情報や当事者達の意見の客観的な整理を通じて、新しいシステムの提案に貢献する。
- 企業の将来戦略立案に際して、あるいは企業活動中の意志決定に際して、経済的な要素のみならず、社会とのつながりを配慮した広い視野から企業の持続可能性を考え、企業としての社会的な責任を全うすることに貢献する。 等



ESDを担うアジア高等教育機関 人材育成事業（環境省）

1. 概要

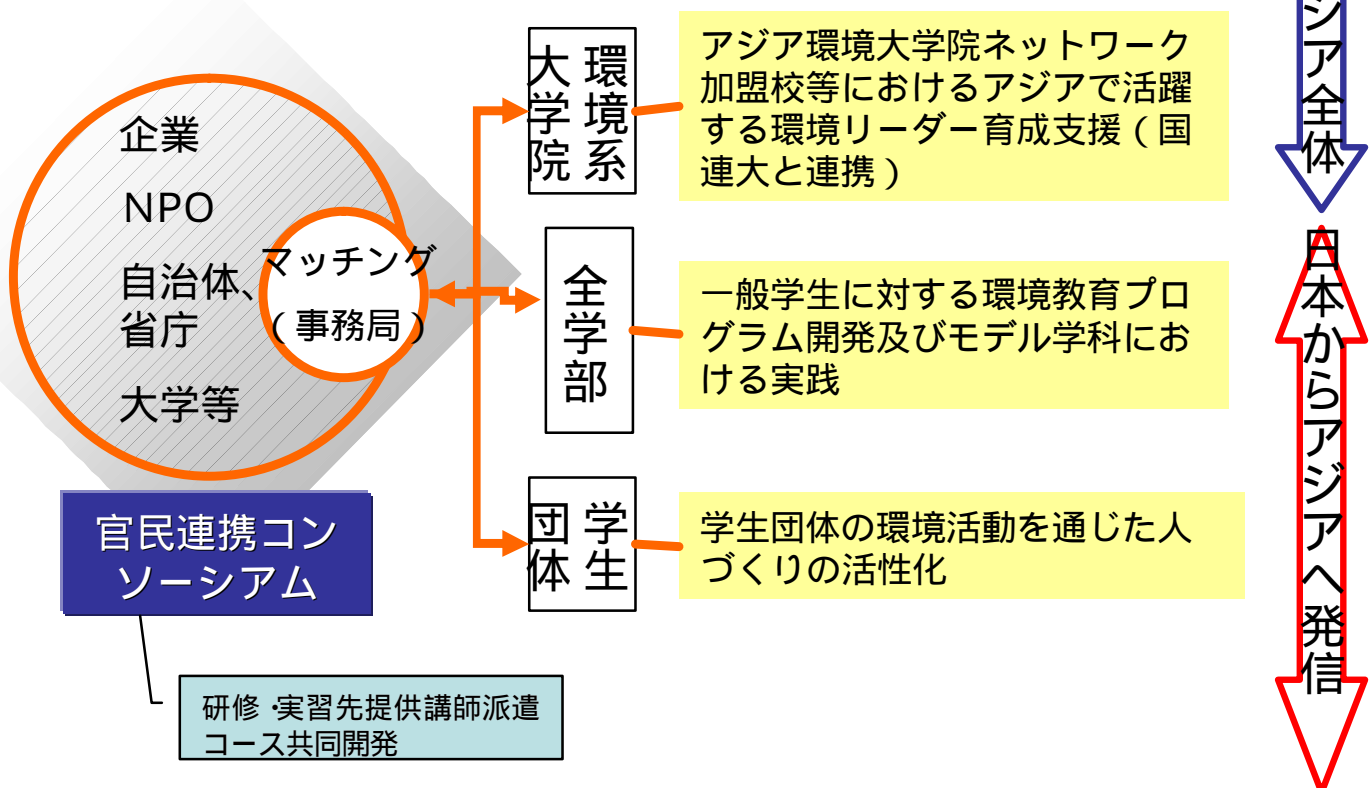
持続可能なアジアの実現には、あらゆる分野（業界、職種等）で、企業活動等の経済社会システムのグリーン化に取り組む人材（環境人材）が不可欠である。そのため、各人の幅広い教養及び専門性を習得させ、卒業後の職業や仕事の方向性に大きな影響を与える場である大学・大学院において環境人材育成を行う。

2. 「持続可能なアジアに向けた環境人材育成ビジョン」策定（H19）



持続可能なアジアに向けて重点的に育成すべき環境人材像の明確化
 大学における環境人材育成の現状と、目指すべき人材育成の仕組み・現状の社会の受入状況
 現状の課題を解決し、環境人材の育成を促す施策や仕組みの検討
 環境人材育成の仕組みづくりに向けた政府の支援施策と2014年までのロードマップの作成

3. 官民連携による環境人材育成（H20～21）



サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)とは……

東京大学が企画運営を統括し、東京大学、京都大学、大阪大学、北海道大学、茨城大学の参加5大学に研究拠点を形成し、個別課題を担う6つの協力機関

(東洋大学、国立環境研究所、東北大学、千葉大学、早稲田大学、立命館大学)とともに構築することを目指すサステナビリティ学分野における世界トップクラスのネットワーク型研究拠点。

参加5大学と協力6機関の強固な連携で研究を進める

サステナビリティ学は、本来的に広汎な事象および理念をその中に包含する。参加5大学、協力6機関が有する高い学術的ポテンシャルを有機的に連携することによってサステナビリティ学を追究し、学問領域として確立し発展させることを目標とする。この連携の象徴が「連携フラッグシッププロジェクト」である。この代表となる連携研究プロジェクトには以下3つがある。

- フラッグシッププロジェクト①
〈サステナブルな地球温暖化対応策〉
主幹事—東京大学、副幹事—茨城大学
- フラッグシッププロジェクト②
〈アジアの循環型社会の形成〉
主幹事—大阪大学、副幹事—北海道大学
- フラッグシッププロジェクト③
〈グローバルサステナビリティの構想と展開〉
主幹事—京都大学

